

玄海町みらい計画（案）

目 次

第1章 序論.....	1
1 玄海町について.....	2
1-1 玄海町の位置と地勢.....	2
1-2 玄海町の個性と魅力.....	2
2 (仮称)玄海町みらい計画について.....	3
2-1 策定の経緯と目的.....	3
2-2 (仮称)玄海町みらい計画とは.....	4
2-3 (仮称)玄海町みらい計画の特色.....	6
第2章 基本構想.....	11
1 まちの将来ビジョン.....	12
2 分野連携による将来ビジョンの実現.....	13
3 KGI（目標を達成するために最も重要な指標）.....	14
4 土地利用方針.....	16
第3章 基本戦略.....	17
KGI（Well-being 指標（主観指標））の見方.....	18
1 産業分野.....	19
2 教育分野.....	20
3 健康分野.....	21
4 安全・安心分野.....	22
5 社会基盤分野.....	23
6 協働・共創分野.....	24

第1章 序論

1 玄海町について

1-1 玄海町の位置と地勢

玄海町は九州北西部佐賀県の東松浦半島の中央に位置し、西は玄界灘、北・東・南を唐津市に接し、遠くは壱岐対馬を見渡すことができ、雄大な玄界灘に面したリアス式の美しい海岸は玄海国定公園に指定されています。

玄界灘に面した玄海町周辺の海域には、対馬暖流の影響を受ける全国でも有数の漁場があります。沖合域は天然礁が多く、マダイ・ブリ・イカなどの好漁場で、沿岸域ではマダイ・カキ・フグなどの養殖が行われています。

また、標高 100～200 メートルの低い山が波状的に起伏する、玄武岩特有の「上場台地(うわばだいち)」では、豊かな大地からたくさんの恵みが収穫されます。

気候は、対馬海流を北上する対馬暖流の影響を受けて比較的温暖で、寒暖の差が少ない海洋性気候の特徴があります。

1-2 玄海町の個性と魅力

『浜野浦の棚田』 総枚数 **283** 枚 (11.5ha)

お米の生産が盛んです。町のシンボル・浜野浦の棚田には、大小合わせて 283 枚の田んぼがあり田植えの時期には夕日が海面と水田を茜色に染め幻想的な景色になります。

『食が充実したまち』 一次産業経営体数 **409** 事業者 (令和 4 年度時点)

主に農業、畜産、林業、漁業などの一次産業に従事する事業者が 409 あります。玄海町の産業全体を支え豊かな食文化を生み出し、森林の保護や環境の保全の役割も担っています。

『教育に熱心なまち』 子どもたち(8 年生)の公営塾通学率 **77.8%** (令和 6 年 1 月末時点)

令和 3 年に開校した公営塾。小学 4 年生から中学 3 年生までが対象で、運営は大手進学塾が手がけます。英語教育の充実を図るため 5～6 年生に英語学習を導入。官民一体となり子どもたちの学力アップをサポートしています。

『人口よりも多い！牛の町内飼養頭数』 人口比 **133%** (令和 5 年 3 月 31 日時点)

唐津・玄海地区は、漁業や農業だけでなく、畜産業も盛んな地域です。玄海町では人口よりも多い牛が飼育されているほど。その多くがブランド牛「佐賀牛」となります。

2 (仮称)玄海町みらい計画について

2-1 策定の経緯と目的

玄海町では、これまで「総合計画」と「総合戦略」をそれぞれ策定・運用してきました。

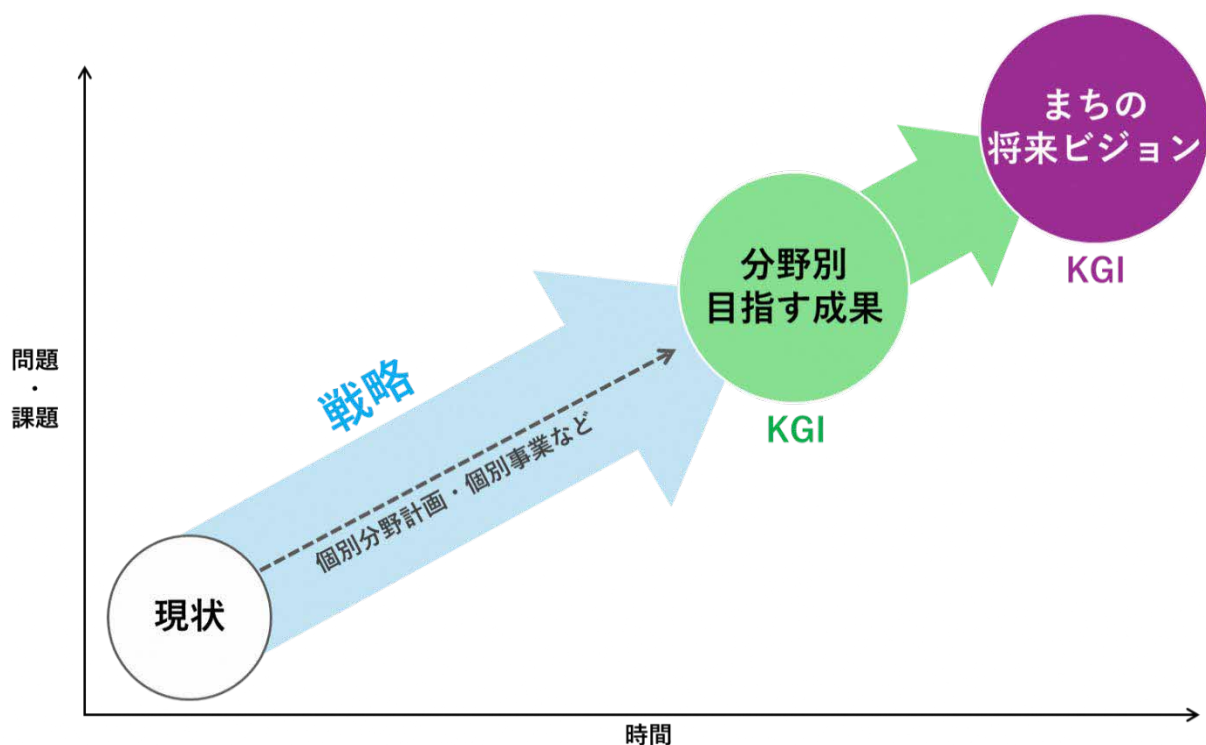
総合計画は、まちの基本的な方向性を示す最上位の計画です。将来の「あるべき姿」を描き、その実現に向けてあらゆる分野にわたる施策を総合的・体系的に整理します。行政運営の指針であるとともに、町民・事業者・行政が一体となって取り組むための共通の目標を定めるものです。

総合戦略は、総合計画の理念を踏まえながら、特に人口減少や地域経済の縮小といった重要課題に的を絞り持続的に発展していくための具体的な方向性を示す実行計画です。産業振興や雇用の創出、移住・定住の促進、子育て・教育環境の充実など地域の強みを生かした戦略的な施策を展開し、町のにぎわいと活力を次世代へつなげていくことを目的としています。

しかしながら、両計画の内容には地域づくりや人口減少対策など重複する部分が多く、施策の整理や進捗管理が複雑になるといった課題がありました。また、町民にとっても将来に向けた方向性が分かりにくい状況であったことや限られた人員・財源の中で計画を二重に策定・運用することは行政の負担とっていました。

このため、第六次総合計画及び第2期総合戦略の策定にあたり統合することとしました。

これにより、町の将来像の実現と人口減少への対応を一体的に位置づけ政策の重複を避けながら効果を最大化し、分かりやすい形でまちの将来ビジョンを示します。



2-2 (仮称)玄海町みらい計画とは

『みんなで一緒に玄海町の未来をつくっていくための道しるべ』 です。

まちづくりは行政だけが行うものではなく、町民のみなさん一人ひとりが大切な担い手です。地域の団体や事業者、専門機関など、さまざまな人たちが力を合わせて取り組むことで、玄海町の未来をつくっていきます。

「(仮称) 玄海町みらい計画」は、これまでの総合計画と、総合戦略をひとつにまとめた、町の“最上位の計画”です。玄海町がこれから目指す姿(ビジョン)と、その実現に向けた方向性を示しています。

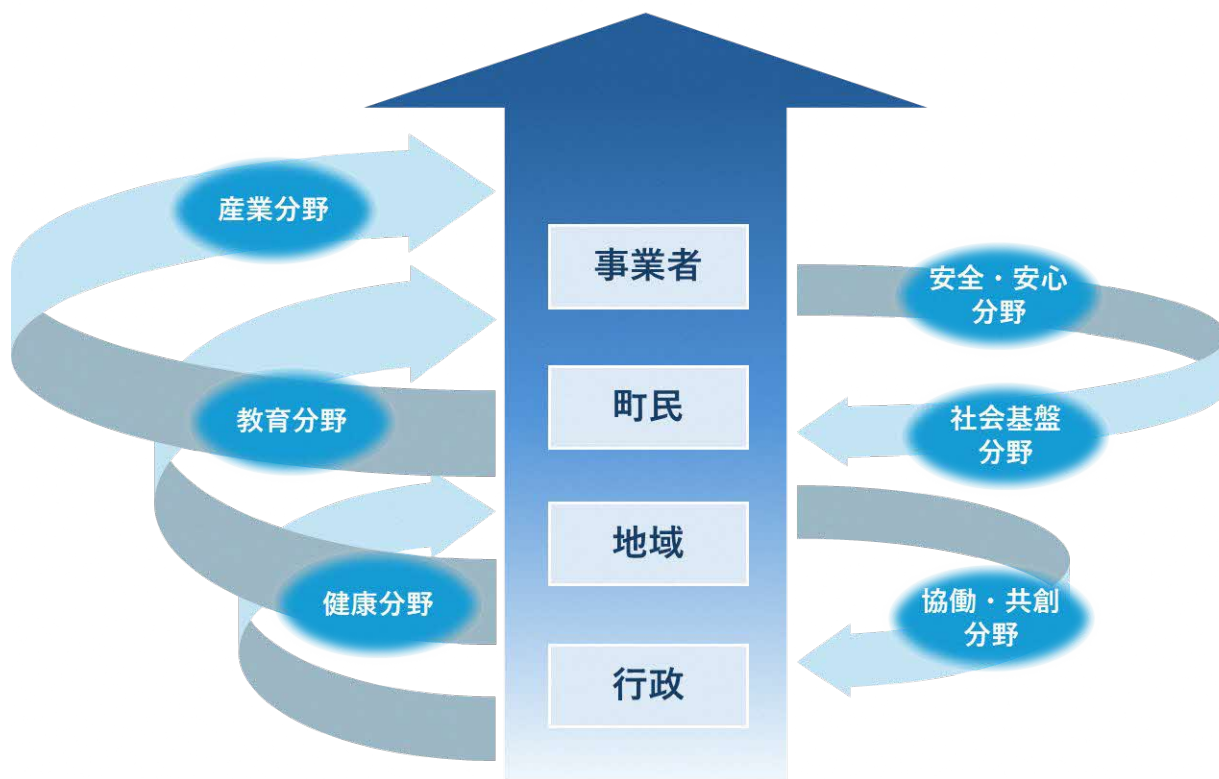
この計画をもとに、教育・福祉・防災・産業などの分野で具体的な計画や取組みを進め、多様な人や組織がそれぞれの役割を担いながら、町の活力を高め、好循環を生み出すことを目指します。

また、取り組みは一度決めたら終わりではなく、進み具合を定期的に確認し、社会の変化や町の状況に合わせて見直しを行いながらよりよい形へと改善していきます。

つまりこの計画は、「みんなで一緒に玄海町の未来をつくっていくための道しるべ」です。

町民のみなさんとともに、一歩ずつ確実に前に進めていきます。

たくさんの「いいね！」を感じられる玄海町



多様なプレイヤーが各分野に対応し町内の活性化と好循環を促す

■(仮称)玄海町みらい計画の構成

(仮称)玄海町みらい計画は、基本構想の考え方を踏まえて各取組み、計画を進めていきます。

基 本 構 想	玄海町の目指す姿として、「まちの将来ビジョン」を描きます。
基 本 戦 略	まちの将来ビジョンを実現するために、分野別で基本的方向性や目指す成果（町の「いいね！」の状態）」を示します。

■(仮称)玄海町みらい計画の期間

(仮称)玄海町みらい計画は、基本構想が令和 8 (2026)年度から令和 15(2033)年度までの 8 年間、基本戦略が令和 8 (2026)年度から令和 11(2029)年度までの 4 年間とします。また、この計画に紐づく具体的な取組は、PDCA サイクルにより進捗管理を行います。

	R8 2026 年 度	R9 2027 年度	R10 2028 年度	R11 2029 年度	R12 2030 年度	R13 2031 年度	R14 2032 年度	R15 2033 年度
基 本 構 想								
基 本 戦 略	前期				後期			
取 組 推 進								

■(仮称)玄海町みらい計画の進捗状況の管理

(仮称)玄海町みらい計画の成果や進捗を客観的に見る
ことができるように、KGI（目標を達成するために最も重
要な指標）を指標として設定しました。

これら指標の達成を意識しながら施策・事業に取り組み、実施計画に従って着実に事業を実行していきます（Do）。各指標に対する進捗状況や実績値は毎年度定点観測し、計画どおりに進まなかった場合はその要因を評価・検証します（Check）。さらに、どの施策を重要視すべきか、より効果的な事業を展開できないかなど、施策の重点化や事業の見直しを行い（Action）、計画に反映させます（Plan）。



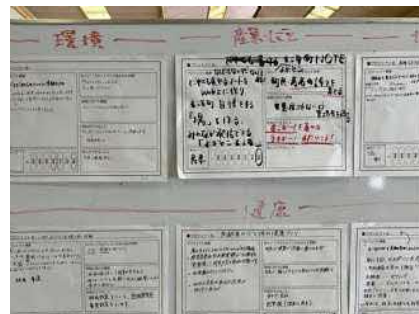
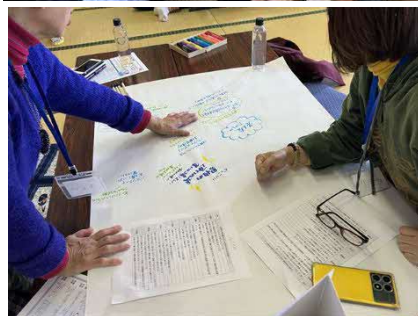
2-3 (仮称)玄海町みらい計画の特色

(1) 町民の声を幅広く取り入れた計画・戦略

玄海町で暮らす一人一人が「玄海町いいね!」と思えるまちづくりを進めていくにあたっては、玄海町にかかわるすべての人々が一丸となってまちづくりを進めていく必要があります。そのため、町の実態を把握するために町民や町内企業を対象としたアンケート調査やワークショップ等を実施し、計画や戦略に町民の声を反映するように努めました。

町民を対象としたワークショップでは、参加者同士がテーブルを囲み、町民視点での“町の幸せ”や“必要な取組み”について考えました。付箋やペンを使いながら模造紙に自由に意見を出し合い、町長も交えた意見交換会では、参加者から「それよかね!」といった声も聞こえる和やかな雰囲気でした。

玄海町で暮らす女性の視点からまちづくりを考えた女性部会では、子育てや働き方、地域コミュニティ等、日常生活に根ざした町の良いところや課題が語られ、参加者同士の共感や新たな気づきが生まれる活発な意見交換の場となりました。



(2) 4つの重要テーマ

町の現状や社会潮流を踏まえて、玄海町みらい計画では、4つの重要なテーマを整理しました。

①女性や若者に選ばれる町向け、『未来の子育て世帯』を増やす政策の加速化

婚姻率が高く、合計特殊出生率も一定数確保できていますが、出生率・若年女性が少ない状況です。若年女性の流出抑制と玄海町が居住先として選ばれることが必要です。

また、進学等で一度町外に転出してしまう人が、玄海町に戻ってきたくなる環境づくりが必要です。

町外への流出の原因は、「住まいの選択肢が少ない」ことも一因と考えられるため、賃貸住宅や空き家の市場流通も必要です。

加えて、「未来の子育て世帯」を増やすために、若者への支援を厚くし、転出抑制、U・Iターン獲得につなげる必要があります。

②地域社会の活力と成長を支える

電気業の関連産業を中心に、大きな雇用を生む強みを活かし、労働者が住み、町内で消費する職住近接への誘導が必要です。

一方、電気業に頼り過ぎると社会情勢によって、大きな打撃を受ける可能性があります。そのため、社会情勢に影響されにくい基幹産業である地場産業（農業・漁業等）の活性化を図り、地域産品で外貨を稼ぐことも必要です。また、農業の総生産額は町内産業において上位であり、さらに伸ばすことは、地域経済循環の向上にとっても重要となります。

さらに新たな産業の開拓と基幹産業の発展と持続を通じて町外に転出した子どもたちが玄海町に戻ってくることができる仕事づくりとしても重要となります。

③デジタルを武器とした地域課題解決

デジタル技術を活用した地域課題の解決が推進されている社会潮流を踏まえ、この「機会」を玄海町でも活かしていくことが大切です。

総合戦略では、デジタルを活用することで、行政サービスの高度化、町民に使いやすい役場への変革、地域産業の人手不足の補完、働き方の変革、情報発信力・伝達力の強化などにつなげ、住民が便利で快適な生活を楽しむ環境を作ることが必要です。

④玄海町ならではの「Well-Being」の追求

家族や友人と笑顔で過ごせるとき、医療や福祉を安心して受けられるとき、自然と調和した暮らしを楽しめるとき——その瞬間「いいね!」と感じる状態こそが、玄海町における Well-Being のかたちです。そのため「Well-Being」をより親しみやすく「いいね!」という表現に置き換えました。

町民の活躍は、町民の自己実現だけでなく、地域づくりへの貢献や町全体の幸福感にもつながると考えます。玄海町で生活することで感じることでできる「いいね!」を増やすことは、定住・移住にも好影響になると考えます。また、「やりたいことをみんなが応援してくれる」ことも、まちづくりを行うにあたって大きな原動力となり、今よりもっと「いいね!」となるまちにつながります。

そのため、町民・町職員・町内企業等と一緒に玄海町版 Well-Being「いいね!」を追求し、実現に向けた取組が必要です。

（３）Well-Being の考え方を取り入れた計画・戦略

住民一人ひとりの実感を大事にし、どのような状態になれば目標が達成されたと言えるのかをわかりやすく整理するとともに、計画の進捗状況がわかりやすく、取り組み意欲が掻き立てられる計画になるよう努めました。

Well-Being の概要について

■Well-Being（ウェルビーイング）とは

「Well-Being」とは、単に経済的な豊かさや物質的な充足を指すのではなく、人々が心身ともに健やかで、社会とのつながりを持ちながら、自分らしく幸せに生きられる状態を意味する概念です。世界保健機関（WHO）も健康の定義の中で「身体的、精神的、社会的に良好な状態」として Well-Being を重視しており、近年では国や自治体の政策形成においても重要な視点として位置付けられています。

玄海町においても、住民一人ひとりが「生きがいを実感し、安心して暮らせる」状態を実現することが不可欠であるためその基盤として Well-Being の考え方を導入します。

■なぜ Well-Being の考え方が必要なのか

わが国では、人口減少や高齢化の進展、地域経済の縮小など、まちづくりに大きな転換が迫られています。従来は経済成長や社会資本の整備など量的な指標を中心に政策が進められてきましたが、人口減少社会においては「量の拡大」よりも「質の向上」がより重要になります。

とりわけ、町民が「暮らしに満足している」「まちに誇りを持っている」「将来も住み続けたい」と感じることは、地域の持続性に直結します。玄海町においても、豊かな自然や地域資源、コミュニティの力を活かしつつ、住民の幸福度を高めることが新しい政策の方向性として求められています。

そのため、従来の経済・人口・財政指標に加えて、住民の生活実感を測る Well-Being を評価に組み込むことが必要です。

■どのように計画に反映するのか

総合計画や総合戦略に掲げる施策の効果を、従来の数値指標に加えて Well-Being 指標を用いて検証します。これにより施策が実際に住民の暮らしや幸せの実感に結びついているかを明らかにすることができます。具体的には、町民アンケートや行政データを用いて Well-Being を定期的に測定し、その結果を計画の進捗評価や次期計画の改善に反映します。これにより、「住民の声に根差した PDCA サイクル」を構築し、町民と行政が協働してより良いまちづくりを進める基盤とします。

Well-Being 指標について

■Well-Being 指標とは

Well-Being 指標とは、町に住む人が「しあわせ」や「豊かさ」をどのくらい感じているかを数字やデータで可視化したものです。単に人口や経済の大きさだけではわからない、暮らしの質や満足度を確かめるために使われます。

■なぜ導入するのか

人口の増減やお金の動きといった数字だけでは「町民が安心して暮らせているか」「住んでいて誇りを感じられるか」等の町民がどのように感じているかまでは分かりません。

そこで玄海町では、人口の多さだけを目標にするのではなく、町民のみなさんが「この町に住んでよかった」と感じられる暮らしを目指すために、この指標を導入します。

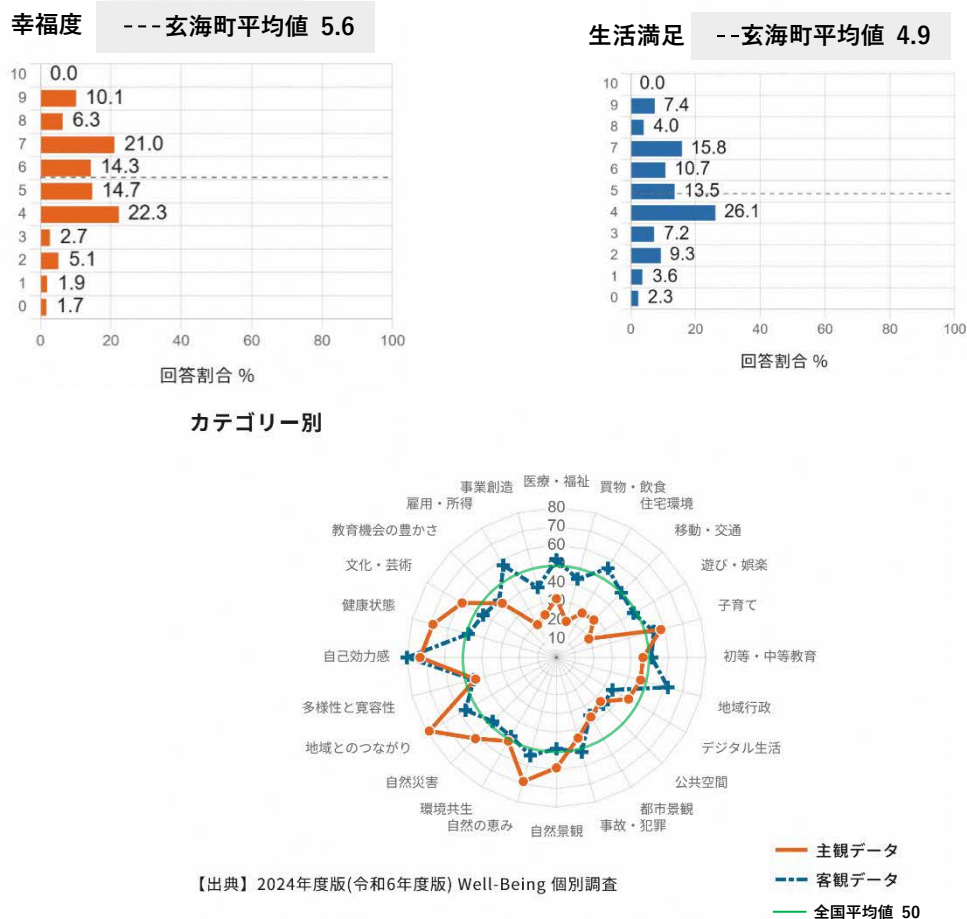
■どのように活用するのか

Well-Being 指標は、町の計画の進み具合や成果を確かめる「ものさし」として活用します。具体的には、住民アンケートなどで健康や安心感、人とのつながりなどについて伺い、その結果を町のデータとあわせて整理します。こうして得られた情報を、次の施策や事業に生かしていくことで、「数字の目標」だけでなく「町民のしあわせ実感の向上」を大切にしまちづくりを進めていきます。

■Well-Being 指標の全体構成

Well-Being 指標は、町の暮らしやすさを多角的に把握するために、複数の分野で構成されています。例えば、健康、仕事や生活の安定、教育や学び、地域の絆、自然環境や安心・安全といった視点を取り入れています。

また、Well-Being 指標は、町の政策とその政策の効果として現れる町民の幸福感を結びます。主観指標と客観指標を同じ因子構成とすることで主観と客観の紐づけを簡素化し、因子間の関連から注目すべき因子の抽出できます。主観指標は、アンケート調査から町民の Well-Being を測定し、客観指標はオープンデータから測定します。



■Well-Being 指標の因子群とカテゴリー

Well-Being 指標は、大きなまとまりごとに整理されています。これを「因子群」と呼んでいます。たとえば「健康や生活」「学びや成長」「地域のつながり」「安全や環境」といったまとまりのことです。その中にはさらに小さな分け方があります。これを「カテゴリー」と呼びます。たとえば「健康や生活」の中には「体の健康」や「安心して暮らせる生活」といった内容が入っています。

こうして分けていくことで、町のみなさんの暮らしを細かく見える化でき、課題や良いところが分かりやすくなります。

Well-Being 指標は、地域における幸福度・生活満足度を計る 4 つの設問と、3 つの因子群(“生活環境”、“地域の人間関係”、“自分らしい生き方”)から構成され、因子群は合計 24 のカテゴリーに細分化されます。



■Well-Being 指標の計画における評価方法

総合計画・総合戦略の進捗や成果は、この Well-Being 指標を用いて評価します。

具体的には、定期的に住民アンケートなどを実施し、各要素に関する満足度や重要度を測定します。その結果をもとに、政策の効果や改善の方向性を把握し、次の施策につなげていきます。

また、人口動態といった従来のデータも組み合わせることで、住民の実感と客観的な現状の両面から総合的に評価する仕組みとします。これにより、単なる「数値目標の達成」だけでなく「町民のしあわせ実感の向上」という両方の視点から、計画の成果を測ります。

第2章 基本構想

1 まちの将来ビジョン

たくさんの「いいね！」を感じられる玄海町

まちづくりは行政だけが行うものではなく、町民のみなさん一人ひとりが大切な担い手です。地域の団体や事業者、専門機関など、さまざまな人たちが力を合わせて取り組むことで、玄海町の未来をつくっていきます。

玄海町は、町民一人ひとりが日々の暮らしの中で幸せを実感し、豊かな心で暮らせるまちを目指します。

現在は、身近にある美しい自然や新鮮でおいしい地域産品、積極的な子育て支援等のように既にたくさんの“魅力や優れているところ”があります。一方、働く場所の少なさや移動の不便さなどのように、「いいね！」と感じられない側面もあります。

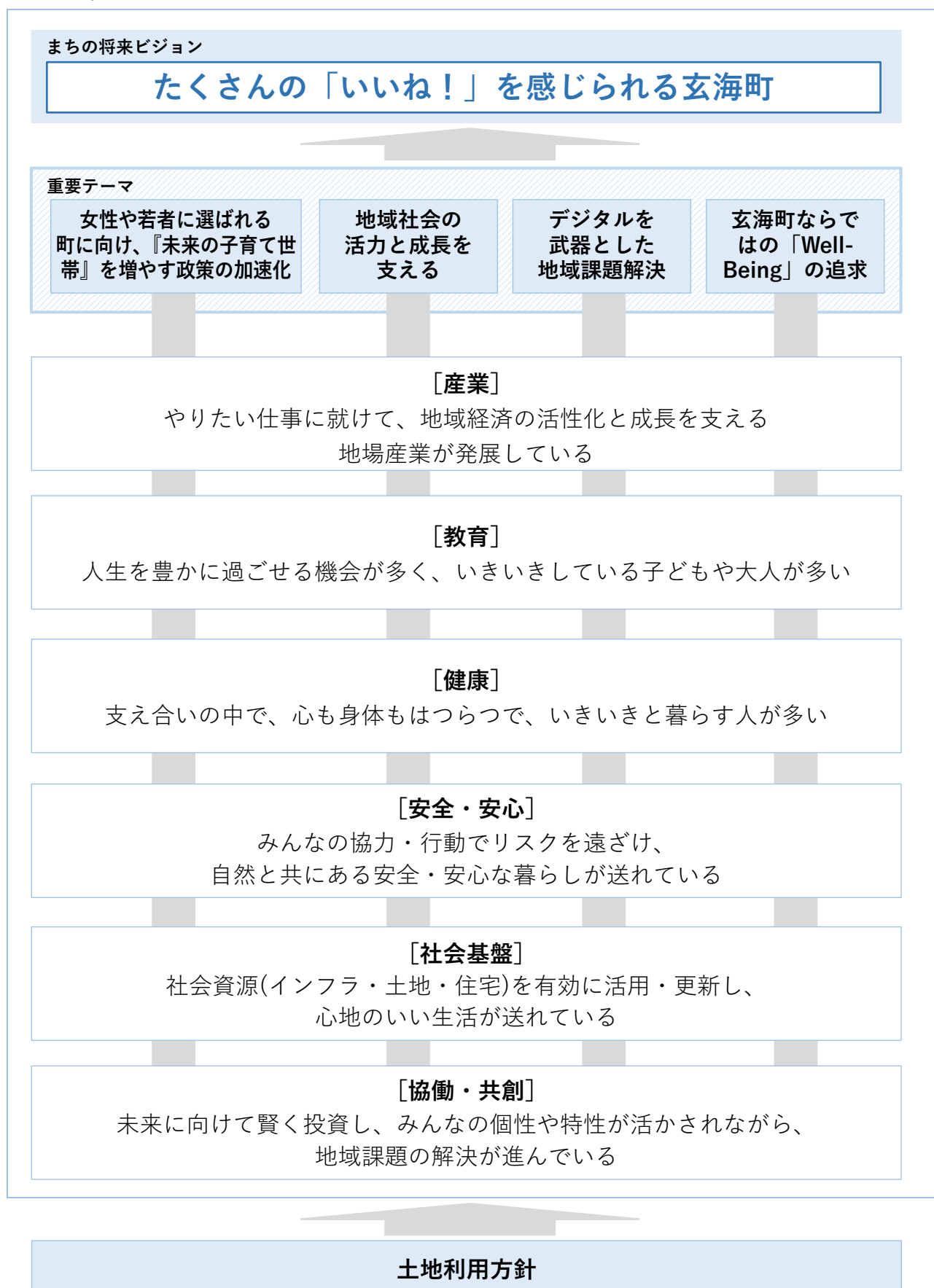
特に、子どもたちが学校内だけでなく、地域の中でのびのびと学び、未来を拓く力を育てる機会を充実させていくことは、未来の玄海町だけでなく、子どもたちや子どもたちの親、地域で暮らす住民にとって重要だと考えています。

さらに、デジタル技術を活用し、誰もが快適で便利に暮らせる仕組みづくりや新たなチャレンジができる環境づくりを推進していくことで、より多くの人々が「玄海町に住みたい！」と思う魅力的なまちづくりを進めていきます。

そして、経済的な豊かさだけでなく、健康や人とのつながり、生きがいを大切にする「Well-Being（地域幸福度）」の視点から、日々の暮らしの中にある「いいね！」を認識すること、集めること、作ること、広めること、維持することに取り組めます。

2 分野連携による将来ビジョンの実現

まちの将来ビジョンの実現に向けて、4つの重要テーマを基に各分野が連携しながら取組みを進めていきます。



3 KGI（目標を達成するために最も重要な指標）

■玄海町における Well-Being

玄海町では「Well-Being」をより親しみやすく「いいね！」という表現に置き換えました。

家族や友人と笑顔で過ごせるとき、医療や福祉を安心して受けられるとき、自然と調和した暮らしを楽しめるとき等、その瞬間に感じる「いいね！」こそが、玄海町における Well-Being のかたちです。

■本計画での展開

こうした考え方を踏まえ、活力があり、住み続けられる玄海町を実現するためには、町が持つポテンシャルを十分に活用し、“いいね！”の好循環を加速化していくことが必要となります。また、若者から選ばれる地域となるべく、玄海町の強みを生かすとともにデジタル技術を活用しながら、若者の流出抑制や U・I ターン獲得につなげていきます。人口減少をはじめとした社会課題の解決に向け、デジタルのチカラで地域の生産性や利便性を高め、「たくさんの『いいね！』を感じられる玄海町」に向かって、持続可能なまちづくりを行政、地域、民間等が一丸となって進めていきます。

■KGI / まちの将来ビジョンを実現させるために目指す最上位の成果

まちの将来ビジョンの実現度合いを測るための指標として、KGI（目標を達成するために最も重要な指標）を設定します。様々な分野にまたがるすべての町の取組みが関連しながら KGI の向上、まちの将来ビジョンの実現を目指します。

KGI

項目名	基準値	目標値
総人口	4,755 人	4,629 人
20～40 代人口	1,333 人	1,315 人
合計特殊出生率	1.98	2.1

KGI（Well-Being 指標）

項目名	基準値	目標値
地域における幸福度	5.6	6.49
地域における生活満足度	4.9	6.48

[KGI（目標を達成するために最も重要な指標）の解説]

項目名	解説
総人口	人口は、町の持続可能性を左右する基盤となります。人口は地域社会の活力や経済活動、福祉サービスの維持に直結し、将来の世代へ町をつないでいくための前提条件となります。そのため、人口の動向を最も重要な指標として位置付け、本計画のあらゆる施策の成果を集約的に示す指標として位置付けています。 ・基準値 2025.3.31 時点 ・目標値 玄海町人口ビジョン（改訂版）の目標値から算定した数値
20～40 代人口	20～40 代は、結婚・子育て・就労の中心を担い、地域社会の将来を支える中核的な世代です。しかし玄海町では、この世代の町外流出が続き、地域の活力低下や人口減少に直結しています。そのため、この世代の人口を維持・増加させることを目標とし、住まいや働く場の確保、子育て支援等の施策を通じて、定住・移住を目指しています。 ・基準値 2025.3.31 時点 ・目標値 基準値の年齢構成比と同等の比率を維持したときの人口
合計特殊出生率	少子高齢化が進む中で、将来の人口構造を安定させるには、子どもを安心して産み育てられる町であることが欠かせません。そこで合計特殊出生率を指標として位置付け、子育て世帯の経済的負担軽減や教育・保育サービスの充実等により、「子育て世代に選ばれる町」をめざします。 ・基準値 第2期玄海町まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 実績平均値 ・目標値 第2期玄海町まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 目標値
地域における幸福度	玄海町では、住民の幸福（Well-Being）を「いいね！」という表現で示しており、町の特色として「小さな幸せの積み重ね」を大切にしています。人と人とのつながり、挑戦できる環境、自然と共にある暮らしなど、日々の中で「いいね！」と感じられる瞬間が増えることは、町全体の活力や魅力の源になります。そのため、幸福度の向上を指標化し、住民が心から「暮らしてよかった」と思える地域づくりを目指しています。 ・基準値 2024 年度版 Well-Being 個別調査結果 ・目標値 2024 年度版 Well-Being 全国平均値
地域における生活満足度	人口の維持や定住促進のためには、単に住み続けるだけでなく「ここで暮らすのが快適で安心」と住民が感じる事が不可欠です。玄海町では医療や交通、買い物環境など日常生活に関わる課題がある一方、デジタル化や地域コミュニティの強化によって改善の余地があります。住民が日常の中で利便性や安心感を実感できるようにすることを成果の指標として位置付けています。 ・基準値 2024 年度版 Well-Being 個別調査結果 ・目標値 2024 年度版 Well-Being 全国平均値

4 土地利用方針

玄海町は海、森林、農地など多様な自然環境に恵まれており、このような豊かな自然環境を維持・保全し、次世代へ継承していくことが求められます。

そのため、多様な自然環境の維持・保全、良好な住環境の形成、産業活動の活発化、観光と交流の推進などに資することを土地利用のコンセプトとします。

① 自然環境保全区域

玄海国定公園に指定されている区域については、自然環境や景観の保全を図るとともに、自然を生かしたレクリエーション地域としての活用を図ります。

② 森林保全区域

保安林指定地域やまとまった森林を含む区域については、適切な維持管理を行い、森林の多面的機能（景観向上、防風、水源かん養など）が高度に発揮できる状態を維持するとともに、環境教育や自然とのふれあいの場として活用を図ります。

③ 農業区域

優良な農用地は、農地の流動化・集約化を図りつつ、重要な生産基盤として保全するとともに、生産力向上のための必要な施策を進めます。

④ 住宅・宅地・市街地域

既存集落を中心に、移動手段の確保や買い物弱者への対策など生活基盤及び快適な生活環境の整備を図ります。

また、福祉関連施設を整備し、教育施設跡地については、住民の活動・交流の拠点づくりも含め、有効利用を行います。

さらに、商工業施設などの適正配置を図るとともに、産業立地の可能性を検討します。

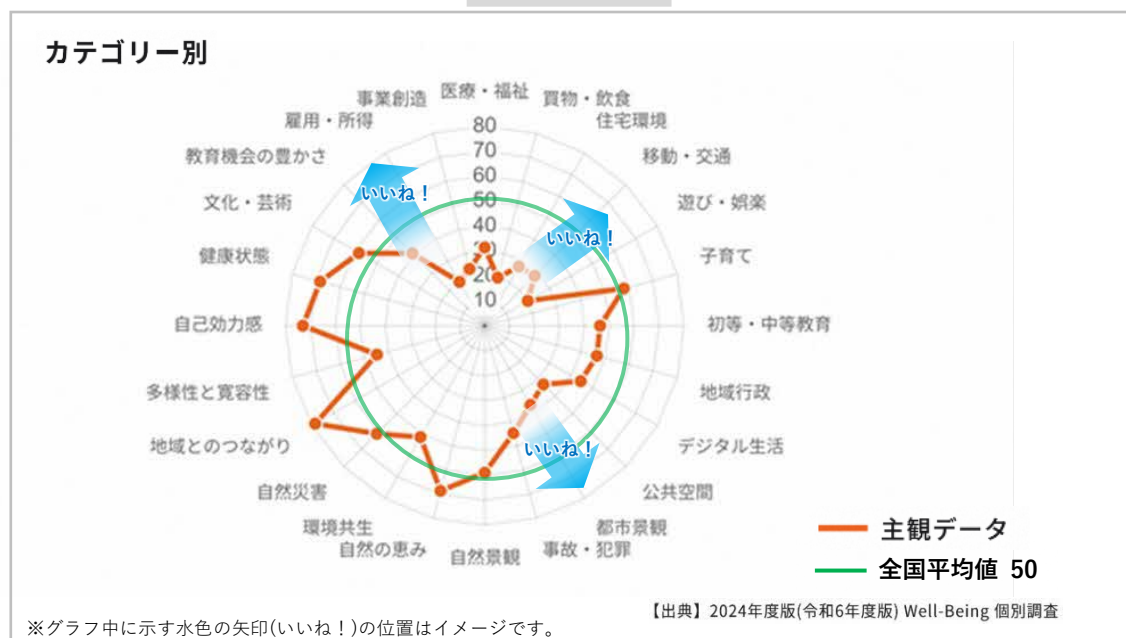
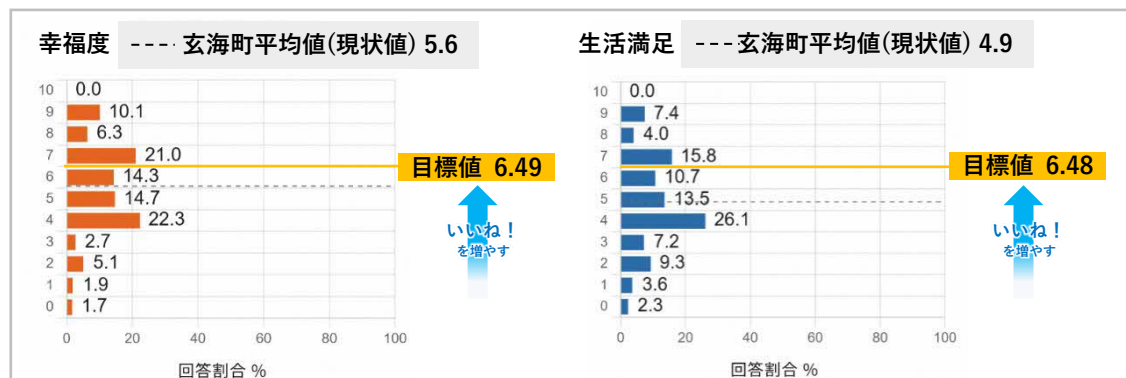
⑤ 多様性と連携による地域づくり

農村、漁村、市街などの地域間相互のネットワークにより、人・モノ・情報の交流を活発化させ、これらの交流が新たな価値創造につながり、さらには賑わいを創出することにもつながっていくため、各地域が自らの資源に磨きをかけて、新しい成長エンジンになるよう、地域の連携をより一層図っていきます。

第3章 基本戦略

KGI（Well-being 指標（主観指標））の見方

玄海町では、「幸福度」や「生活満足度」の向上を意識して取組みを進めていきます。各分野で取り組む政策や事業は、すべて「幸福度」や「生活満足度」の向上に関係しており、まちの将来ビジョンである、“たくさんの「いいね！」を感じられる玄海町”につながっています。



Well-Being 指標は、全国の自治体の平均を 50 とした偏差値で表されています。「偏差値」とは、玄海町の状況がどのあたりに位置しているかをわかりやすく示した「ものさし」です。数値が 50 より高ければ全国平均より高い状態、50 より低ければ改善の余地がある状態を示します。

偏差値	状況の目安	意味合い	目標値設定の考え方
60 以上	強みがある分野	全国的にも高い水準で、まちの良さが表れている	現状維持
50 前後	全国平均的な分野	多くの自治体と同じくらい水準	現状値 + 3
40 以下	のびしろのある分野	取り組むことで、暮らしの質がより高まる	現状値 + 5
30 以下	改善が必要な分野	暮らしへの影響が大きく、重点的な対策が必要	現状値 + 10

※この数値は「良い・悪い」を決めるものではなく、まちの特徴やのびしろを知るための参考情報です。

※この指標を使う目的は、「他の町より上か下か」を競うことではなく、玄海町がどのくらい幸せに近づいているかを見える化することです。

1 産業分野

■目指す姿

やりたい仕事に就けて、 地域経済の活性化と成長を支える地場産業が発展している

地域で暮らす人々が自らの希望に沿った仕事に就ける環境を整えることは、玄海町の持続的な発展に欠かせません。農林水産業や建設業、サービス業等の地場産業は、自然や文化に根ざした強みを持ち、地域経済の基盤を支えています。これらを次世代につなぎつつ、新しい価値を生み出すことで、地域経済の活性化と成長、新たな雇用、所得向上の実現を目指します。

■KGI（Well-being 指標（主観指標））

“変化の目安となる基準値”

カテゴリー		基準値	目標値
雇用・所得	● やりたい仕事を見つけやすい ● 適切な収入を得るための機会がある	20.3	30.3
事業創造	● 新たな事に挑戦・成長するための機会がある	23.6	33.6
子育て	● 子育て支援・補助が手厚い	57.8	60.8

※基準値は、2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 個別調査（玄海町）指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 地域で安心して働き、暮らしと子育てを両立できる就労環境の広がりを目指す。 ● 若い世代が戻りたい・住みたいと感じられる産業構造の形成を目指す。
地域社会の活力と成長	● 電気業の強みを活かしつつ、基幹産業を主とした各種産業の可能性を引き出し、地域内での循環を目指す。
デジタルの活用	● デジタル技術の活用により、生産性や販路の拡大を目指す。 ● 地域資源が新たな価値として発信される産業構造を目指す。
Well-being の追求	● 町民が誇りを持って産業に関わり、働く喜びと地域貢献を両立できる仕組みを目指す。

2 教育分野

■目指す姿

人生を豊かに過ごせる機会が多く、いきいきしている子どもや大人が多い

子どもから大人まで、誰もが学び、挑戦する機会を持つことは、人生を豊かに過ごす基盤となります。玄子どもがいきいきと育つ環境を目指すとともに、大人も学び直しや地域活動などの多様な学びを通じて成長し続けられる環境を目指します。また、デジタル教育や地域における体験学習などを通じた学びの循環が町全体の活力を育むことを目指します。

■KGI（Well-being 指標（主観指標））

“変化の目安となる基準値”

カテゴリー		基準値	目標値
教育機会の豊かさ	● 学びたいことを学べる機会がある	41.0	46.0
初等・中等教育	● 教育環境（小中高校）が整っている ● 通学しやすい場所に学校がある	46.3	51.3
子育て	● 子どもたちがいきいきと暮らせる	57.8	60.8

※基準値は、2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 個別調査（玄海町）指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 子どもや若者が将来の可能性を広げ、町外で学んだ後も玄海町に戻りたいと感じられる教育環境を目指す。
デジタルの活用	● デジタル教育の広がりによって、子どもも大人も学びの選択肢が増えていく状態を目指す。 ● 地域全体が新しい知識や技術を活かせる環境を目指す。
Well-being の追求	● 子どもが夢を描き、大人も学び続けられる環境を目指す。 ● 学びを通じた自己実現によって、幸福感が得られる状態を目指す。

3 健康分野

■目指す姿

支え合いの中で、心も身体もはつらつで、いきいきと暮らす人が多い

町民一人ひとりが心身ともに健やかであることは、地域全体の力強さにつながります。支え合いのつながりの中で、病気を予防し、健康寿命を延ばす取り組みを進めることで、誰もが安心していきいきと暮らせるまちを実現します。

■KGI（Well-being 指標（主観指標））

“変化の目安となる基準値”

カテゴリー		基準値	目標値
健康状態	● 身体的、精神的に健康な状態である	68.4	68.4
医療・福祉	● 医療機関が充実している ● 介護・福祉施設のサービスが受けやすい	31.4	41.4
デジタル生活	● 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	44.5	49.5

※基準値は、2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 個別調査（玄海町）指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
デジタルの活用	● 医療や介護にデジタルが取り入れられ、町民自身が効率的で簡単に健康管理が行える環境を目指す。
Well-being の追求	● 誰もが健康でいきいきと暮らせること自体が幸福感となり、地域の大きな価値として共有されている状態を目指す。

4 安全・安心分野

■目指す姿

みんなの協力・行動でリスクを遠ざけ、 自然と共にある安全・安心な暮らしが送れている

玄海町は自然と共に生きるまちであり、同時に災害や事故への備えも重要です。町民の協力や行動を通じてリスクを遠ざけ、誰もが安心して暮らせる地域社会を築きます。安全と安心が、未来への希望を支える基盤となります。

■KGI（Well-being 指標（主観指標））

“変化の目安となる基準値”

カテゴリー		基準値	目標値
自然災害	● 防災対策がしっかりしている	61.3	61.3
事故・犯罪	● 防犯対策（交番・街燈・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい ● 歩道や信号が整備されていて安心である	44.6	49.6
地域とのつながり	● 同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している ● 困ったときに相談できる人が身近にいる	78.6	78.6

※基準値は、2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 個別調査（玄海町）指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 子育て世帯が安心して暮らせる防災・防犯体制が整い、若年層にとって選ばれるまちを目指す。
デジタルの活用	● デジタル技術を活かした見守りや情報共有が進み、リスクを早期に察知できる安心の仕組みを目指す。
Well-being の追求	● 自然と共生しつつ、安心できる暮らしが確保されており、その穏やかさが幸福感につながっている状態を目指す。

5 社会基盤分野

■目指す姿

社会資源(インフラ・土地・住宅)を有効に活用・更新し、 心地のいい生活が送れている

道路や住宅、公共施設といった社会資源は、暮らしの質を大きく左右します。公民連携の下、限られた資源を有効に活用し、更新を重ねながら、住みやすく心地よい環境を形成していきます。快適で利便性の高い生活基盤が、町民の暮らしを支えます。

■KGI（Well-being 指標（主観指標））

“変化の目安となる基準値”

カテゴリー		基準値	目標値
移動・交通	● 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	28.3	38.3
住宅環境	● 自宅には、心地のいい居場所がある ● 適度な費用で住居を確保できる	27.4	37.4
環境共生	● リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	51.6	54.6
地域行政	● 公共施設は使い勝手がよく便利である	46.6	51.6

※基準値は、2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 個別調査（玄海町）指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 若者や子育て世帯が暮らしやすい住環境の形成を目指す。 ● 安心して将来を描ける住まい方の広がりを目指す。
地域社会の活力と成長	● 交通や生活基盤が適切に維持されている状態を目指す。 ● 町内で働き暮らす循環を支える仕組みが整っている状態を目指す。
デジタルの活用	● 社会基盤にデジタルが取り入れられ、効率的かつ快適な生活が可能となる環境を目指す。
Well-being の追求	● 心地よい住環境や利便性のある社会基盤が、町民の暮らしの満足度を高め、住み続けたいと思える要素となっている状態を目指す。

6 協働・共創分野

■目指す姿

未来に向けて賢く投資し、みんなの個性や特性が活かされながら、
地域課題の解決が進んでいる

地域が直面する課題は多様であり、その解決には行政だけでなく町民や企業、団体の力が欠かせません。未来に向けて賢く投資し、個性や特性を生かし合うことで、町全体で課題解決を進めます。協働・共創の取組が、持続可能な地域づくりを後押しします。

■KGI（Well-being 指標（主観指標））

“変化の目安となる基準値”

カテゴリー		基準値	目標値
地域とのつながり	● 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである ● 町内（集落）の人が困っていたら手助けをする	78.6	78.6
多様性と寛容性	● 町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある ● 女性が活躍しやすい雰囲気がある ● 若者が活躍しやすい雰囲気がある	44.8	49.8
公共空間	● 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	33.3	43.3
地域行政	● 地域の行政は地域のことを、真剣に考えている	46.6	51.6

※基準値は基準値は、2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 個別調査（玄海町）指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 地域全体で女性や若者を支え合い、安心して子育てや生活を営める雰囲気の醸成を目指す。
デジタルの活用	● デジタルを共に使いこなす力が町内に広がり、協働・共創の形が進化し、地域運営の効率性や透明性の高まりを目指す。
Well-being の追求	● 一人ひとりの個性や特性が尊重され、協働・共創を通じて「ともに歩む喜び」が共有される地域文化を目指す。

玄海町みらい計画

玄海町 企画商工課

〒847-1421 佐賀県東松浦郡玄海町大字諸浦 348 番地

Tel : 0955-52-2111 (代表) Fax : 0955-52-5008

玄海町みらい計画